

マーケットの動き（2020年11月2日～11月6日）

米国国債市場は、前週末比で金利が低下しました（債券価格は上昇）。

米国大統領選挙の結果判明の遅れと米国議会上院で共和党の優勢を受けて、財政拡張の期待が後退したことから、米国10年国債の金利は低下しました。

ドイツ国債市場は、次回のECB（欧州中央銀行）理事会における追加緩和の期待が織り込まれる中で横ばいでの推移となりました。

投資環境見通し（2020年11月）

長期金利は、米国では上昇圧力が続き、欧州（ドイツ）ではさらなる低下余地は限定的

米国：製造業を中心とする景気回復基調や、財政拡張に伴う超長期債の増発懸念を背景に、長期金利の上昇圧力は続くとみえています。ただし、長期金利が急激に上昇する場面ではFRBによる量的緩和強化など追加の金融緩和策が意識されるとみられ、上昇幅は限定的と予想しています。

欧州（ドイツ）：新型コロナウイルスの感染再拡大や英国とEUとの通商協議を巡る先行き不透明感から長期金利が低下基調で推移していますが、ECBによる年内の追加金融緩和については相当程度織り込まれているとみられ、さらなる低下余地は限定的とみえています。

	11月6日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	0.82	▲0.04	0.07	0.11	▲0.99
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース（騰落率）	487.21	0.09%	▲1.35%	4.44%	3.81%

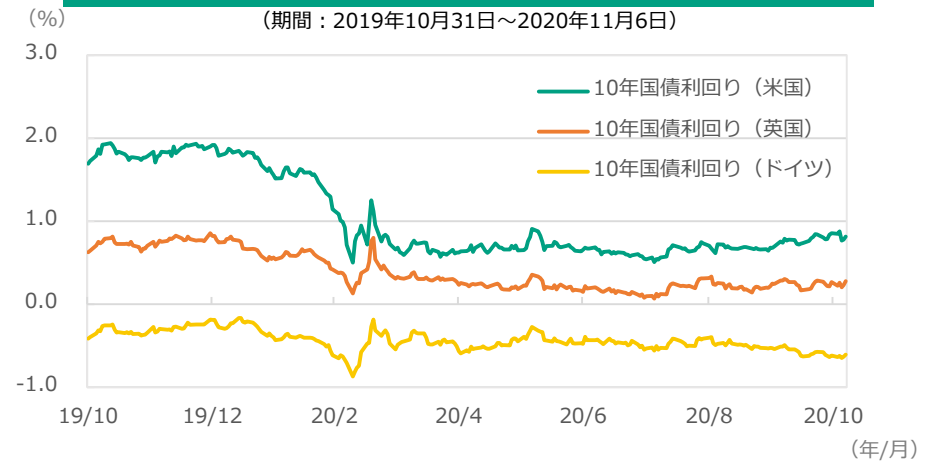
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202011_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

主要国国債利回りの推移



FTSE世界国債インデックスの推移



※2019年10月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成